平成 30 年３月１日

「ベビーホテル対策」として夜間保育制度の確立を求める意見書
～『夜間の保育所待機児童』の解消に向けて～

全国夜間保育園連盟
会長　天久　薫

無認可であるベビーホテルの在所児童は、認可の夜間保育所の不足によって生じる。
その数は、平成 28 年３月 31 日現在、**30,121 人(1,579 カ所)。**
いわゆる保育所待機児童数は、平成 28 年４月１日現在、**23,553 人**。

１．ベビーホテルの課題

社会問題化したベビーホテル対策として、1981 年、認可夜間保育所が制度化されたが、37 年経過した現在でも全国でわずか 80 数か所。一方、ベビーホテルは着実に増加し、自治体に届けられたものだけでも、この２０年で３倍以上の 1,500 カ所を超える(*1)。ベビーホテルは夜間保育の主役の座にあるが、設備等は格段に劣っており、特に**保育士の絶対数の不足**が致命的である。なぜ認可保育所に比べて保育士が少ないのか。ベビーホテルは公的補助金がほとん**どなく、保護者の保育料だけで運営しているから、人件費を圧縮せざるを得ない(*2)。**この課題は 1980 年代と同じままで、何ら解決されていない。

２．認可夜間保育所の課題

認可夜間保育所はなぜ増えないのか。認可夜間保育所は、多様化する勤務形態に対応するため創設されたので、当然のことながら**開所時間が夜間に及び、長時間**になる。全夜間保育所の平均保育時間は 16.5 時間、一般保育所は 13 時間未満が多い。11 時間開所の保育所で 24 時間のベビーホテルに対抗すること自体が、既に無謀である。**延長保育は、**オプションであるため補助額も少なく、**長くなればなるほど経営は圧迫**される。しかも、**夜間加算は低額**(*3)である。よって、園にも職員にも苦労ばかり多く、メリットがない(*4)。

３．国・市町村の課題と対策

国・市町村の課題は、**ベビーホテルの実態を的確に把握していない**ことである。
ベビーホテルが存在する自治体においても、夜間保育に関する適切なニーズ調査すら行われていない。これは、必要な子どもに良質かつ適切な保育を提供することを自治体の責務とした子ども･子育て支援法の理念に反し、視点を変えれば自治体のネグレクトである。
この状況下にあって、利用する保護者の半数程度はサラリーマンである認可夜間保育所は、夜間・長時間勤務、変則勤務、単親家庭、貧困、外国籍の家庭等、手厚いケアや配慮を必要とする現代的福祉課題の受け皿となっている。
従来、夜間保育は子どもの成長・発達に悪影響を及ぼすとの誤解があったが、三菱財団・福祉医療機構等からの助成による長年の調査・研究（現筑波大学院安梅勅江教授チーム*5）により、**質の担保された夜間保育は子どもにとって好影響を及ぼす**との結果を得ている。

よって、国は、先ず**ベビーホテルの実態を調査**し、ベビーホテルの子どもたちのニーズを把握・分析して、およそ 40 年前に設定された認可夜間保育所の前時代的な**開所時間を見直し、適切な開所時間に比例した新単価を設定したり、夜間加算を増額する**(*6)など、ベビーホテル対策の名にふさわしい夜間保育制度の確立が、今まさに求められている。

意見書付記

＊1
　意見書別紙１参照

＊2
　ベビーホテルの最大の問題点は、保育士の絶対数が足りないこと。
　これは構造的に当然なことである。なぜなら、認可保育所には、保護者の保育料だけでなく国や自治体からの補助があるが、ベビーホテルはほぼ保護者の保育料のみで運営されているからである。例えば、ベビーホテルが、“認可並み”に固執して０歳児の子ども３名に保育士ひとりを配置しようとすれば、公的な補助はないので、保護者から 20 万円前後の保育料を徴収しなければならない。しかし実際にはそんな高額は徴収できないので、保育料を“認可”の 1/3 の７万円にすると、“認可”の３倍の０歳児の子ども９名を保育士ひとりで保育しなければならなくなる。

＊3
　夜間加算は、児童数 65 名の第２どろんこ夜間保育園で年間 1,000 万円程度である。夜間保育所は、給食が昼夜の２回あり、一般の保育所より１回多いので、食材に 500 万円、調理員雇用費に 200～250 万円かかる。残額は年間 300～250 万円程度である。しかも、閉園時刻が午後 10 時であっても午前２時であっても、同額である。この金額では、子どもに手厚い保育（保育士数の増）、職員に手厚い給与は不可能である。

＊4
　昼間保育所は給食が昼食の１回だけだが、夜間保育所は、給食が昼食、夕食の２回ある。
　福祉施設は、食事を中心に職員体制を組み、食事時間に多くの職員を投入する。
　昼間保育所では、昼食、おやつが終わると帰宅の準備に入るが、夜間保育所では、昼食、おやつが終わると夕食準備に入り、再度食事時間に多くの職員を投入する。仕事の山場となる給食が１回の昼間保育所に比べ、山場が２回ある夜間保育所の職員は疲労度が高い。
　昼間保育所の登降園はある程度一定時間内だが、夜間保育所の登降園は定時でなく、さみだれ式に出入りがあり、親との対応職員が常時必要である。

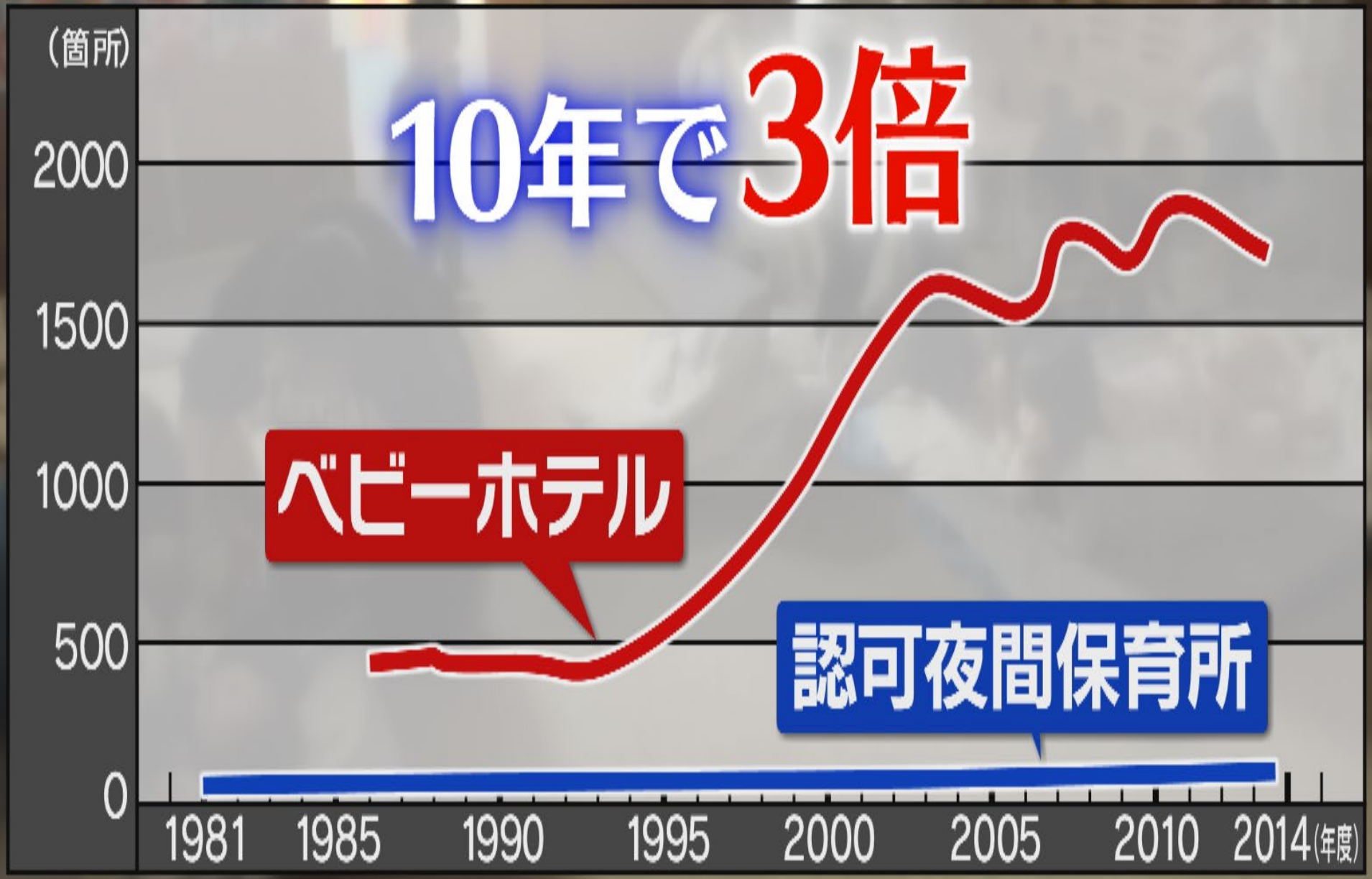
＊5
　意見書別紙２「夜間におよぶ質の高い保育の効果:18 年追跡根拠の活用に向けて」参照

＊6
　～夜間保育制度の確立に向けて～
　①夜間保育所の基本時間（保育標準時間）を 11：00 から 24：00 までの 13 時間とし、夜間(深夜)固有単価を設定する。深夜以降の延長保育にも深夜固有単価を設定する。
　24 時までの 13 時間が必要ない夜間保育所は現状のままとし、深夜以降の延長保育には深夜固有単価を設定する。
　②夜間加算を開所時間に合わせて大幅に増額する。
　③深夜延長保育の利用人数を１名以上とし、最終まで保育士２名が配置できるようにする。
　④夜間学童保育を整備する。
　⑤夜間一時保育、宿泊保育を整備する。

意見書別紙１

認可夜間保育所とベビーホテルの施設数推移

（厚生労働省調べ）



特集１

夜間におよぶ質の高い保育の効果：18年追跡根拠の活用に向けて

筑波大学　安梅（あんめ）　勅江（ときえ）

1. 保育利用の効果

質の高い保育は、子どものすこやかな育ちを保証するとともに、保護者の子育て力を育みます。私たちは18年におよぶ追跡調査に基づき、数多くの根拠を得ています。本稿ではその一端をご紹介します。

保育園を利用する保護者は、家庭で子育てする保護者と比較して、子どもをたたくなどの不適切な行動が少ないという特徴があります（図１）。また保育園の入園１年後には、不適切なかかわりをしていた保護者の６割近くに改善がみられます。「たたく」と回答した61.４％の保護者が、１年後にはたたかなくなります（図２）。子どもと遊んだり、本を読み聞かせたり、歌を歌うことの乏しい保護者は、１年後には66.７％、53.４％、61.２％がより豊かにかかわるよう変化します（図３）。

保育園を利用することで、専門職のパートナーシップのもと、保護者が安心して子育て力を発揮できる可能性があります。京都大学の柴田悠先生は著書「子育て支援と経済成長」で、最初にこの成果を保育の必要性の根拠としてあげています。保育の充実が次世代をしっかり育み、経済成長を促し日本を救う、と論じています。

図１　保育利用効果：保育利用者と非利用者の比較

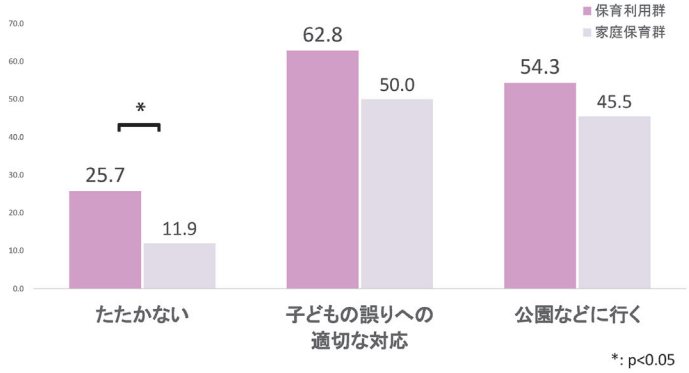


図２　保育利用により保護者が子どもをたたかなくなる割合

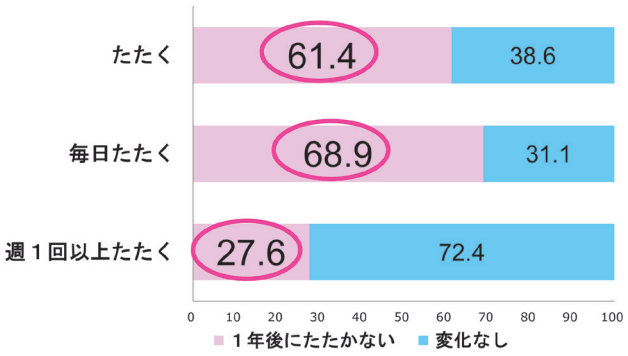


図３　保育利用により保護者が望ましいかかわりをするようになる割合

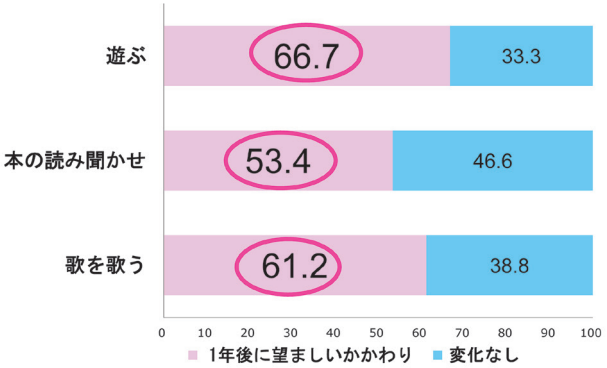
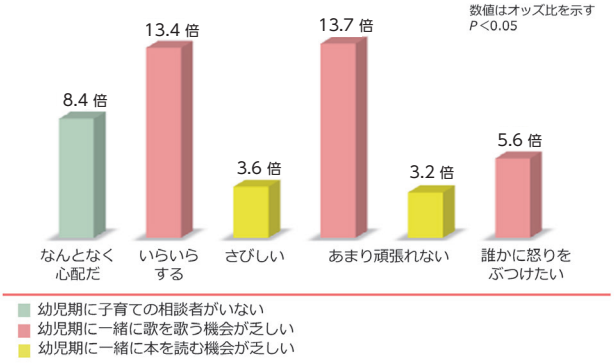


図４　学童期の子どもの育ちに影響する幼児期の要因



2. 認可夜間保育園利用の長期的な効果

夜間保育は子どもの育ちにどのように影響するのでしょうか？保育の効果は、生涯続くものです。私たちは長期におよぶ保育の効果として、卒園後の育ちを調べました。

実は、夜間におよぶ保育も、昼間の保育とまったく同様です。質が高い保育は、子どものすこやかな育ちを支え、保護者の子育て力を育みます（図４）。認可夜間保育園の卒園児の育ちに影響していたのは、保育時間の長さや時間帯ではなく、家庭でのかかわりの質や保護者への相談支援の有無でした。学童期に「なんとなく心配

だ」と訴える子どもは、幼児期に保護者に相談相手がいない場合が、相談相手がいる場合に比べて8.4倍高くなっていました。学童期に「いらいらする」「さびしい」「あまり頑張れない」「誰かに怒りをぶつけたい」と訴える子どもは、幼児期に保護者とともに歌を歌ったり、本を読んだりなどの機会の乏しい場合でした。

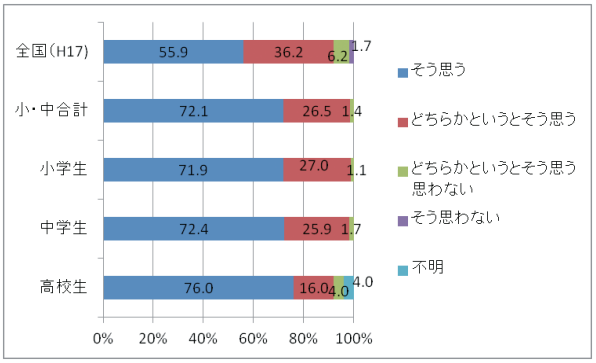
これらは本邦初の18年におよぶ保育追跡調査の成果です。その結果は、諸外国から大きな賞賛を受けることになりました。夜間におよぶ保育であっても、保育の質が高ければ、子どもに望ましい影響を与えているのです。ユネスコの報告書では、「日本の認可夜間保育の質の高さはすばらしい。質の低い長時間保育の悪影響を多くの研究が報告するなか、質の高さゆえに長時間保育してもまったく影響はないという成果が得られている」と紹介されました。

一方、卒園児の特徴を明らかにするために、文部科学省が実施した全国学童データと比較してみました（図5）。その結果と卒園児本人の自由記述から明らかにされた「卒園後の効果」をまとめると、次の5点です。

①社会役割意識の醸成

「人の役に立つ人になりたい」と回答した子どもが、全国と比較して高くなっていました。

図5　人の役に立つ人間になりたい
（一番上：全国、二番目以降：夜間保育卒園児）



②向社会性の育成

「人の気持ちがわかる人になりたい」「人には親切にしたい」と回答した子どもが、全国と比較して高くなっていました。

③意欲の増大

「努力する人になりたい」「勇気のある人になりたい」「勉強のできる子になりたい」と回答した子どもが、全国と比較して高くなっていました。

④自己効力感の涵養

「誠実でありたい」「友だちから人気のある子になりたい」と回答した子どもが、全国と比較して高くなっていました。

⑤本人が認識する夜間保育の教育効果

対人技術、意欲、学習力、生活力、集中力、心の豊かさ、体力などに、卒園児自らの言葉でポジティブな効果があったと述べられていました。

卒園児調査より、**社会のために役立ちたいという気持ちや、人とのつながりを大切にしたい、前向きに一生懸命努力したい、誠実で人から信頼される人になりたいなど、成熟した大人への育ちに保育が大きく貢献**していることが示されました。

これらをみると、日々の営みの中での保育専門職の役割の大きさを、あらためて痛感します。子どもたちは、保護者や専門職など大人の背中をみて育ちます。保護者を支える専門職の頼もしさを感じながら、乳幼児期を過ごします。そこで育んだ愛着や仲間関係、生活習慣などは、子どもたちの生涯にわたり多大な影響を及ぼします。その大切な時期を、仲間や専門職とともに歩むのが子育て支援機関なのです。

3．すべての子どもに質の高い保育を：蓄積した実践知の活用に向けて

認可夜間保育園は、子どもたちの育ちを支え、保護者の子育てを楽しむ力を培ってきました。夜間におよぶ長い時間を子どもたちと共に過ごし、遅くまで働く保護者をしっかり支えることで、真の意味での**子育ち子育てエンパワメント（湧活）**を実現してきたのです。子育ち子育てエンパワメントとは、**子どもの育つ力と保護者の子育て力、地域や社会の子育て力を引き出し、育つ力と育てる力を育む**ことです。質の高い夜間保育の環境は、まさに子どもたちが安心して思うぞんぶん力を発揮する、エンパワメント環境といえるでしょう。

世界中の保育に関する研究の成果は一貫しています。すなわち、質の高い保育を利用すれば、子どもはすこやかに成長します。質の低い保育を利用すれば、マイナスの影響があります。**質が担保されていれば、時間の長さや時間帯は関係しません。**

これらを踏まえ、今後さらに充実が必要な点は次の通りです。

①子どものすこやかな育ちには、「保育の形態や時間帯」ではなく、「家庭における育児環境」および「保護者の育児への自信やサポートの有無」などの要因が強く関連します。

②したがって子育て支援機関においては、子どもの育ちに適合し

た環境をいかに充実するかが重要な課題です。物理的な環境、人的な環境、保育プログラムを含め、**子どもの育ちに寄り添う環境**に心を配る必要があります。

③子育て支援機関の役割として、育児に関する相談相手となり、保護者の育児への自信の回復を促すなど、**「子育てを支える」ための地域拠点としての支援の充実**が期待されます。

④特段の配慮を必要とする子どもや保護者が増加するなか、さらに**専門職の専門性を高める教育の拡充や、専門性の高いスタッフの配置**が必須です。

⑤子どもと保護者、地域とのパートナーシップに基づき、**子育ちを社会全体で支える仕組みづくり**が求められます。

私たちは全国夜間保育園連盟が築いた質の高い保育の知恵を、「保育パワーアップ研究会」を通して全世界に発信しています（図6）。蓄積した英知を広く公開し、クラウドを活用した専門性向上の仕組みを構築しました（図7）。今では夜間保育にとどまらず、こども園、幼稚園、障がい児施設、母子保健センターなど、国内外の数多くの子育て支援機関が活用しています。保護者とのパートナーシップのもと（図8）、科学的根拠と経験的根拠を両輪とした質の高い保育の実現に向け、つねに努力を続けています。

夜間に保育を必要とする子どもたち、質の高い保育を利用できない子どもたちは、実際に何万人も存在します。**「すべての子どもたちに質の高い保育を提供する仕組みづくり」**が一歩前進するよう、心から願っています。

図6　保育パワーアップ研究会
ホームページ
http://childnet.me/

（日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、インドネシア語、モンゴル語の発達チェックリストなどが無料でダウンロードできる）

図7　実践知の蓄積と専門性向上の仕組みづくり
：クラウドを活用した支援システム構築

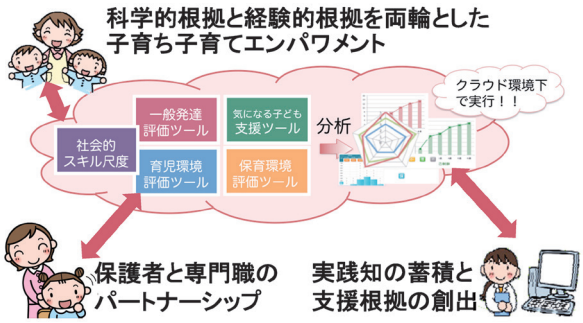
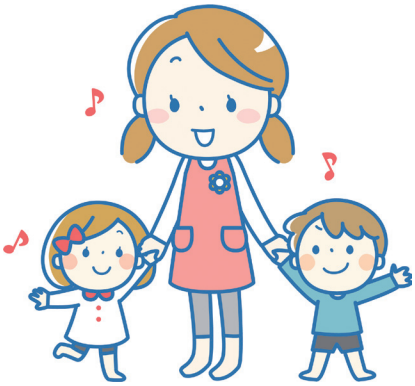


図8　保護者とのパートナーシップに根拠を活用

iPadやパソコン等で保護者と共有



参考文献

1）柴田悠、子育て支援と経済成長、朝日新書、2017

2）安梅勅江、いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学、だれもが主人公　新しい共生のかたち、北王路書房、2014

3）安梅勅江、子育ち環境と子育て支援―よい長時間保育のみわけかた―、勁草書房、2004

4）安梅勅江、根拠に基づく子育ち・子育てエンパワメント―子育ち環境評価と虐待予防―、日本小児医事出版社、2009

5）保育パワーアップ研究会、保育パワーアップ講座　長時間保育研究をもとに子どもたちのすこやかな成長のために、基礎編、活用編、応用編、日本小児医事出版社、2007、2008、2014

6）保育パワーアップ研究会、http://childnet.me/

夜間も昼間も「質の高い保育」は子どものすこやかな育ちをはぐくむ:18年追跡調査の根拠

筑波大学　安梅勅江（あんめときえ）

１.「夜間保育は子どもに悪い」は「保育の質」を勘案しない世間の大きな誤解！

「夜間保育は子どもに悪い」という根拠のないウワサ、あなたは聞いたことがありませんか？

残念ながら、今でも「保育の質」の知識に乏しい行政者などや一般の人の中には、「夜間保育は子どもに悪い」と大きな誤解をお持ちの方がいらっしゃいます。

世界中の研究成果は、「質の高い保育」が、子どものすこやかな育ちと、保護者の子育て力を育むことを明らかにしています。私たちは 18 年におよぶ追跡調査に基づき、夜間におよぶ保育、昼間保育、家庭保育について数多くの根拠を得ています。本稿では特に「夜間におよぶ保育」の子どもの育ちに対する影響についてご紹介します。

実は、夜間におよぶ保育も、昼間の保育とまったく同様です。質が高い保育は、子どものすこやかな育ちを支え、保護者の子育て力を育みます（図１）。

たとえ夜まで仕事があり**認可夜間保育園を利用しても、子どもの成長発達に何ら心配することはありません。専門職のパートナーシップのもと、子どものすこやかな育ちとともに、保護者も安心して「子育てする力」を発揮できます。**

図１　質の高い夜間保育の効果

２．質の高い夜間におよぶ保育の普遍化は急務

それでは今、何が課題なのでしょうか？

質の高い夜間におよぶ保育を提供する認可夜間保育園は、全国に 80 か所ほどしかありません。夜間に保育を必要とする子どもたちのごく一部しか、安心して質の高い保育を利用できないのが日本の現状なのです。

緊急に取り組むべき課題は、夜間に保育を必要とする**すべての子どもたちに対する「質の高い保育の保証」**です。たとえば、全国に数千か所ある認可を受けていないベビーホテルなどの保育の質の向上に向け、根拠に基づいたサポートの仕組みづくりが求められます。

３．すべての子どもに質の高い保育を：実践と科学の融合知を活用しよう

日本の認可夜間保育園の保育の質の高さは、ユネスコの報告書でも取り上げられ、夜間におよぶ保育にもかかわらず、子どもたちのすこやかな育ちを保証していると称賛されました。子どもたちはもとより、遅くまで働く保護者をしっかり支えることで、真の意味での**子育ち子育てエンパワメント（湧活）**を実現しています。子育ち子育てエンパワメントとは、**子どもの育つ力と保護者の子育て力、地域や社会の子育て力を引き出し、育つ力と育てる力を育む**ことです。

世界各国の保育と教育に関する研究の成果は一貫しています。すなわち、質が高い場合は、子どもはすこやかに成長します。質が低い場合は、望ましくない影響があります。**質が担保されていれば、時間の長さや時間帯は関係しません。**

質の高い保育の普遍化に向け、今後ますます全国夜間保育園連盟が築いた質の高い保育の知恵を科学的に根拠づけ、発信する必要があります。

夜間に保育を必要とする子どもたち、質の高い保育を利用できない子どもたちは、実際に何万人も存在します。「**すべての子どもたちに質の高い保育を提供する仕組みづくり**」を目指し、皆で力を合わせて進んでいきましょう。

参考文献

1) UNESCO, Significance of home environments as proxy indicators for early childhood care and education, 2006
2) 安梅勅江、いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学、だれもが主人公　新しい共生のかたち、北王路書房、2014
3) 安梅勅江、子育ち環境と子育て支援－よい長時間保育のみわけかた－、勁草書房、2004
4) 安梅勅江、根拠に基づく子育ち・子育てエンパワメント―子育ち環境評価と虐待予防―、日本小児医事出版社、2009
5) 保育パワーアップ研究会、保育パワーアップ講座 長時間保育研究をもとに子どもたちのすこやかな成長のために、基礎編、活用編、応用編、日本小児医事出版社、2007、2008、2014
6) 保育パワーアップ研究会、http://childnet.me/